



～虫刺され時の対応～

院長 三和 拓人

今年は梅雨入りが遅く、まだまだ外で遊べるとあってか虫刺されの患者様が多いです。皆様勘違いされているのですが、「虫に刺されたらすぐになんらかの処置をする」と早く治ります。やけどの概念と一緒にですね。刺された後気づいても何も対応をしていなく、その後放置での後手後手になり弊院受診する方が多いです。今月はこれからの時期に向けて虫刺されの症状や対策について述べていきたいと思います。



【虫刺され時の対応】

1.患部を消毒するor石鹸で洗う

→皮膚の雑菌や虫の毒を中和洗浄し清潔に

2.市販の外用薬を塗る

→局所麻酔作用(リドカイン含)とメントールで消炎作用

3.ステロイド軟膏を重ね塗りする

→ステロイドの消炎作用

4.患部を覆う(絆創膏等)

→覆うことで薬剤の浸透効果増と掻き防止

・数時間貼ってください。剥がれたら剥がれたでOKです

・防水なので、お風呂(シャワー)もそのままOKです



昔海外の学会で、インド人の先生と話した時、インドでは虫に刺されたら歯磨き粉を塗るそうです。薬が流通しづらいインドで、おばあちゃんの知恵的なものなのでしょうかね。歯磨き粉の成分にもよりますが、何もしないよりはマシですね。日本人の民度が下がる一方で、インド人は賢いなぁと思いました。

そして再掲になりますが、虫に刺されない努力をする事も大事です。

虫を寄せ付けないようにする対策

物理的防御

◆肌を極力出さない服装

長袖&長ズボン、帽子など

◆蚊帳

昔からありますが最近見直されブームになってます



環境的防御

◆色の薄い服を着る

黒>青>赤>茶>緑>黄>白の

順に蚊が寄ってきます

◆汗をこまめに拭く

汗の成分の乳酸や尿素が蚊を引き寄せると言われています

虫よけ製品での防御

◆スプレータイプ



昔からある虫よけスプレーに加えて最近ではオーガニック(ハーブ)を使った天然由来成分の製品が流行。他にも衣服に貼るタイプや体に身に付けるリングタイプも

◆皮膚に塗るタイプ

噴霧式のスプレーと違い、直接皮膚に塗る事により虫よけ効果を確実にする

◆置き型タイプ



昔からの蚊取り線香に始まり、電気型や、最近ではワンプッシュで虫よけ効果が持続するものも

虫刺されを防ぐには、虫を寄せ付けないようにする上記の対策をすると良いかもですね。